

石クリ通信

1月号

2022年はDX

院長 石川 悟

新聞やテレビでさかんにDX(デジタル・トランスフォーメーション)という言葉が出てきます。コロナ禍で遠距離に居住して仕事をしたり、ネットでの会議や講演を行うことが急に当たり前になりました。医療でもオンライン診療が認められて、クリニックでもDXを求められています。

オンライン診療に関しては以前にも書きましたが、泌尿器科をメインとするクリニックでは、尿検査が必須なので、全く現実的ではありません。メールやSNS、スマホなどを使って、患者さんの利便性を上げる方法を当院でも可能か考えてみました。

まずインターネットを使った診療の予約。この近辺のクリニックでも既に実施している所があります。当院でもできないことはないのですが、患者さんは高齢者が多いので利用する人が少ないことが予想されるのと、当院の電子カルテは完全にインターネットから切り離されているので、予約のデータを電子カルテに移すのが非常に面倒であり、実施は考えていません。電話で検査結果を聞きたい、という要望があり、非常に遠距離の人や検査結果項目が少なく、かつ薬の処方などのない場合のみ例外的に対応して来ましたが、現在検査データはすべて電子カルテに入っているため、今後このデータをメールなどに添付して送付するサービスを考えています。

「前立腺肥大症」、「頻回に膀胱炎に罹患する人への注意」など、必要に応じてプリントを渡していますが、すべての疾患に対応するのはなかなか困難です。今はインターネットから簡単に情報を取ることができるので、私が信頼できると考えるホームページのアドレスを紹介することで、診療の助けにしたいです。人工知能(AI)を始め、情報通信技術の進歩はとどまることを知りません。問診票を書いて、尿と血液を送るとAIが診断をつけて、薬を出してくれるような時代になるのもそう遠くないかもしれません。

二〇二二年一月

看護師 太田 小百合

明けましておめでとうございます。二〇二二年の干支は「寅」です。「寅」は動くの意味で、春が来て草木が生ずる状態を表しているそうです。今年は何んな動きをする年になるでしょうか。自分やまわりの人達がいとも笑顔でいられるような、そんな年になってほしいと願っています。今年もよろしくお願いします。

今年の目標

事務 森 多加子

あけましておめでとうございます。今年も宜しく願いします。今年の目標は「歩く」です。どこへ行くにも車が当たり前の毎日。歩いてどこかへ行くことが全くと言うほど無くなってしまいました。今年は歩いてみようと思います。健康づくり、そしてワンサイズ小さい服が着られるように(笑)

老いと向き合う

事務長 石川 都

コロナ禍が未だ収束しないまま、新しい年が明けた。かつて茨キリで講義していた頃は、「生と死」「病」などをテーマに学生たちと議論していたが、仏教の「生老病死」を思うといよいよ残された「老い」についても考えねばならない年齢となった。「老い」のプロセスはもろろん誰にとっても初体験ではあるが、こんなに長い老いの時代を人が迎えられるのは、世界でも先進国の超高齢化社会のみであり、それ自体は非常に恵まれて有難いことではある。

ホリスティック医学を提唱する帯津良一によると、よりよく老いるナイス・エイジングのために参考になるのが、河合隼雄著「老いるとはどういうことか」で、その巻末の対談で河合と免疫学者多田富雄が語っているのが、老いの「多様性」についてである。多田によると、免疫系の老化も皆単一に老化するのではなく、ある機能が低下する人がいる一方で、その機能がむしろ高くなる人もいいるという。それゆえ老人と接する人も単純なマニュアルで対応するべきではなく、老人自身も固定観念に惑わされず、自分の個性を生かしつつ長い老年をどう生きるか考えるべきだと河合は言う。

日野原重明もこれからは、何ができるか(Do)より、どうあるべきか(Be)が、社会の成熟度になるとかつて語っていた。若く能力あふれた年代の自己実現を基準にするのでなく、老いや病や障害で次第にできることが減っても、いかに感謝や生きがいを持つて生きられるかが、この超高齢化社会に問われているような気がする。

年齢と共に心身が老いても、運命を感謝して受け入れ、人生の最終楽章を最期の日まで泰然と生きてゆけたら：と思う。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

誕生日プレゼント

看護師 澤田 彰子

先月私の誕生日がありました。主人からは3倍に見えるルーパー、子ども達からはライト付きの拡大鏡でした。お互い相談もしていないのに同じような物でした。私がいつも「見えない。見えない」と騒いでいたのが私に必要な物を贈ろうと考えてくれたのは嬉しいのですが、誕生日の前に自分でメガネを作り直していたので、見えないのは解決していました。美味しいものを期待していた私にはちよつとがっかりな誕生日でした。

新年

看護助手 柴田 さち子

新年あけましておめでとうございます。今年も健康に気をつけて、歩く時は特に足元の段差に気をつけようと思います。今年もよろしくお願致します。



よろしくお願致します

事務 吉田 政子

明けましておめでとうございます。昨年は、目の前の事だけで手一杯になり、不慣れな対応で、皆様にはご迷惑をお掛けした事と思います。今年は、気持ちに余裕を持ち、周りに気を配りながら笑顔で対応出来る様、頑張りたいと思います。どうぞ、よろしくお願致します。

自己紹介

医師 宮川 友明

新年おめでとうございます。2週目、4週目の水曜日前中に外来担当している宮川友明です。自己紹介させていただきます。

茨城県南の茅崎町(現つくば市)で幼少期を過ごし、土浦一高、筑波大学医学専門学群で学びました。2000年に卒業後、筑波大学腎臓泌尿器科で2年半研修を行い、その後筑波大学腎臓泌尿器科に進み、立総合病院泌尿器科に勤務し、石川先生と、現在日立総合病院副院長の堤雅一先生に泌尿器科のいろはを指導いただきました。2011年4月から再び日立総合病院で手術支援ロボットda Vinciの導入にかかわり、そのことがあって現在勤務している自治医科大学附属さいたま医療センターでのロボット支援手術立ち上げの依頼を受け、2014年4月より現勤務先で診療科長を務めています。育ちが茨城で、県北での勤務が長かったこともあり、石川先生から声をかけて頂き、診療の支援をしております。医師不足な茨城県での支援を今後とも可能な限り行っていききたいと思ひます。今年もよろしくお願致します。

